

長与町図書館友の会「自然観察会」

ニュースレター

NO. 5

平成26年 第5回植物観察会報告

>>>>山川 続

(長与町図書館友の会「自然観察会」代表)

1. 開催日時：平成26年5月31日（日） 9時30分～14時00分

天候：晴れ

2. 集合場所：長与駅前ロータリー

3. 観察場所：中尾城公園，丸田岳麓

4. 観察テーマ：キンシバイの仲間を見比べる。

丸田岳麓の植物を観察する。

5. おもな観察内容





(1) はじめに

丸田岳に行く前に、中尾城公園に咲いているキンシバイ、タイリンキンシバイ、セイヨウキンシバイの違いを観察した。セイヨウ



(写真1)ビューテラス長与北陽台(タンタン岩より)

ウキンシバイは事務所横にだけ、キンシバイは公園内の数カ所に点在している。一番多いのはタイリンキンシバイである。セイヨウキンシバイに似ているビヨウヤナギは公園内では見つかっていない。

キンシバイ オトギリソウ科 オトギリソウ属	花はカップ状に咲く。 葉は普通に対生する。  
タイリンキンシバイ (ヒペリカム・ヒドコート)	キンシバイより大きくて色も濃い花。 花は全開する。 雄しべは花弁の半分くらいの長さ。 葉は十字対生 
セイヨウキンシバイ (ヒペリカム・カリシナム)	ビヨウヤナギに似て雄しべが長い。 雄しべは元気よく <u>まっ直ぐに伸びて</u> 全体がブラシのようだ。 少しずつ角度がずれて茎につく。 
ビヨウヤナギ	花色がセイヨウキンシバイより薄い黄色。 葉がセイヨウキンシバイより大きく、十字対生。 雄しべは <u>やさしくカールして</u> 全体がふわっとした感じ

また、おもしろい形の花をしたニゲラ（キンポウゲ科）が生えていた。原産地は南ヨーロッパである。花びらに見える部分はがく片で、本来の花びらは退化して目立たない。花は糸状の総ほう片（つぼみを包んでいた葉の一つ一つ）に包まれる。花後にばんばんにふくらんだ果実ができ、熟すと裂けて中から黒い種子が出てくるので、別名をクロタネソウ（黒種草）という。



種子にはアルカロイドや揮発性の油が含まれていて、薬として利用される。一見黒ゴマに似た真っ黒い小粒の種子だ（写真2）ニゲラ（中尾城公園）が、角張っているのが特徴である。粒のまま乾燥させたものには、ほのかにオレガノのような弱い香りしかないが、噛み砕くとクミンにも似た強い香りが感じられる。現在もインド料理にはよく利用されている。

（2）観察した主な植物

①ヤブヘビイチゴ（バラ科キジムシロ属）

扇塚公園に生えている植物を観察会で調べようと思い、前日、下見に行くと、ゴルフ場みたいにきれいに刈り取られた後だった。その中でもひととき目立っていたのが、地面すれすれに生えていたヤブヘビイチゴの果床だった。よく似たヘビイチゴとの違いを右表にまとめた。

ヘビイチゴ属は、ヘビイチゴとヤブヘビイチゴの2種だけの属である。似た名前のオヘビイチゴは、別のキジムシロ属の植物なので、苺のような果実はできない。

ヤブヘビイチゴの果床は食べなかった（毒はない）が、クサイチゴとビロードイチゴの果床をみんなでおいしく食べた。

ヤブヘビイチゴ	ヘビイチゴ
 <ul style="list-style-type: none"> ・果床、そう果ともに、光沢がありしわがない。 ・やや大きめ ・葉は濃緑色 	 <ul style="list-style-type: none"> ・果床、そう果ともに、光沢がなくしわがある。 ・やや小さめ ・葉は黄緑色
 <p>左：ヤブヘビイチゴ 右：ヘビイチゴ</p> <p>10倍ほどの虫眼鏡があると、果床の違いは、すぐに判る。</p>	

※下見で観察した扇塚公園周辺の植物です。

アオカモジグサ、アオモジ、アカメガシワ、アキノタムラソウ、アメリカフウロ、イヌビロイノコヅチ、イワガネ、ウラジロチチコグサ、エノキ、オオアレチノギク、オオバコ、オニタビラコ、オニユリ、カエデドコロ、カモジグサ、カラスザンショウ、カラムシ、キカラスウリ、ギシギシ、キツタ、クサイチゴ、クサギ、クズ、コゴメツメクサ、コセンダングサ、コハコベ、コマツヨイグサ、コモチマンネングサ、シロツメクサ、スイカズラスイバ、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、スマレ、セイタカアワダチソウ、タイサンボク、タブノキ、チヂミザサ、チドメグサ、チャボタイゲキ、ツボクサ、ツユクサ、ツワブキ、テイカカズラ、トウネズミモチ、トウバナ、ナルトサワギク、ナンバンキブシ、ヌカススキ、ヌルデ、ネズミモチ、ノアザミ、ノゲシ、ノブドウ、ハハコグサ

ハマナススキ、ハマヒサカキ、ヒメコバンソウ、ヒメジョオン、フユイチゴ、ヘクソカズラ
マツバゼリ、ムベ、ムラサキカタバミ、メリケントキンソウ、ヤブガラシ、ヤブジラミ
ヤブチョロギ、ヤブニッケイ、ヤブヘビイチゴ、ヤブムラサキ、ヤマノイモ、ヨモギ

② テイカカズラ (キョウチクトウ科 テイカカズラ属)

扇塚公園を出発すると、ミカン畑の防風のために植えてあるヒサカキにからまって白い花を咲いていた。

茎や葉を切ると白い乳液が出る (有毒)。

花ははじめ白く、次第に淡黄色になり、ジャスミンに似た芳香がある。

(写真2) テイカカズラ



テイカカズラの和名の由来

出典: 「季節の花300定家葛」より

・謡曲の「定家」に由来すると言われています。

京都を旅していた僧侶が夕立にあい、雨宿りで駆け込んだところが、歌人の「藤原定家」が昔建てた家だった。どこからか現れた女性が、その僧侶を、葛 (つる) のからんだ「式子内親王 (平安時代の後白河法皇の第三皇女)」の墓に案内し、こう語った。

”藤原定家は式子内親王を慕い続けていたが、内親王は49歳で亡くなってしまい、定家が式子内親王を想う執心が葛となって内親王の墓にからみついてしまった。内親王の霊は葛が墓石にからんで苦しんでいるらしい”

僧侶はそれを聞き、内親王の成仏を願って墓の前で読経した。実は、先ほどの女性は式子内親王本人の「霊」で、僧侶が読経してくれたことで成仏できて喜んだ。

そして、この、からみついた「葛」に後年、「定家葛」の名前がつけられた。

テイカカズラミサキタマフシ

丸田岳山頂で、10年前に撮影した。当時、果実と思っていたので、名前が分からずじまいだった。数年後、虫えいではと思い、調べて正体が分かった。

テイカカズラミタマバエによって細長くなるべき実が不規則な球形になった。図鑑によると2つの実が先端でくっついていてと書いてある。



長与町丸田岳山頂 (20041030)

③ キウイフルーツ (マタタビ科 マタタビ属)

丸田岳登り口の横に、キウイ畑がある。今、花を咲かせ、果実ができ始めた頃だ。

キウイフルーツは、主に東アジアに自生するサルナシ (マタタビ科) のうち、「シナサルナシ」 (サニータウン下の沢沿いにも生えている) という中国原産の植物を品種改良されたものである。中国ではかなり昔から存在していたが、栽培はほとんど行われていなかったようだ。そして1904年に中国を訪れた女性旅行者によってキウイの種がニュージーランドに持ち込まれ、農夫達により品種改良されて現在のキウイの原種が誕生した。



店頭で見かけるグリーンキウイの多くが「ヘイワード」という品種である。



セイヨウミツバチの巣箱（ミツバチ科ミツバチ属）

扇塚公園から丸田岳へ歩いていると、ミカン畑の中に養蜂箱が数箱置いてあった。出入りしているハチを観ると、セイヨウミツバチである。全体が茶褐色で、腹部に縞模様がある。腹部上部がオレンジ色であることでニホンミツバチと見分けられる。もともとヨーロッパからアフリカ、中近東にかけて分布していた種類が、養蜂に利用するために家畜化されたもので、日本には北米経由で移入された。



ニホンミツバチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジアから中国、日本に分布するトウヨウミツバチの亜種で日本に昔から生息している。 ・ ハチミツは、年間で1回しか採取できない（値段は高い）。 「ふらっとばぐずろぐ」より→ ・ スズメバチには集団で熱殺、体全体が黒っぽい 	
セイヨウミツバチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年に何度も採蜜できる（値段は安い）。 ・ スズメバチには1対1で攻撃（数時間で全滅することもある） ・ 管理の必要あり、性格は攻撃的、逃亡はほとんどない ・ 扇風行動は、巣に頭を向けて行う。体全体が黄色っぽい。 	

ケヤキの巨木モニュメント（「のぞみの杜」入口・長与町吉無田郷）

この前を通るとき、いつも気になっていた巨木モニュメントです。説明板には、次のように書いてあります。

「この櫓の巨木は樹齢一千年と言われ、茨城県つくば市新井の古民家の屋敷内に生えていたものをつくば市マルタカ産業の仲介で譲り受け、超大型トレーラで陸上、海上輸送し九州に陸揚げ1,700kの道のりをここへはこんだものです。樹齢一千年、幹廻り8.5m 高さ7m、重さ15t超 平成26年4月」



○主な参考・引用資料

- ・ ヘビイチゴとヤブヘビイチゴの実の違い：<http://kuma-pan.net/sample02.htm>
- ・ ハーブ&スパイスガイド：<http://www.franco-japonais.com/tomato/herbarome/nigelle.php>
- ・ 季節の花 300：定家葛（ていかかずら）
- ・ 昆虫エクスペローラ：セイヨウミツバチ <http://www.insects.jp/kon-hatiyousyumitu.htm>
- ・ 日本養蜂：日本蜜蜂と西洋蜜蜂 <http://www.geocities.jp/kazuhati31/tigai.htm>
- ・ 岡山理科大学：植物雑学事典 <http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/zatsugakujiten.htm>
- ・ ウィキペディアフリー百科事典：キウイフルーツ、テイカカズラ
- ・ ヤサシイエンゲイ：ニゲラ http://yasashi.info/ni_00001.htm

長与町図書館友の会「自然観察会」 ニュースレター NO. 5

発行日：2014年6月11日

編集：山川 続 メール：yamagawa1957@yahoo.co.jp

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/yamagawa/syokubutsu-kansatsukai-annai.html>

発行者：長与町図書館友の会「自然観察会」